

2025年度しおあなの森保育園事業報告

堺中央共生会しおあなの森保育園は設立14年目を無事終了した。今年度は9名が入園し計72名でスタートした。また16名の子どもたちが、しおあなの森保育園で過ごした経験を胸に各小学校へと巣立っていった。

1. 保育について

今年度は、子どもたちが遊びこめる園庭の環境整備をさらに進めた。大型遊具では自力で登れる竹のぼり棒をつけた。また、菜園の前を田んぼにし、みんなで米を育てた。ビオトープではメダカが泳ぎ、子どもたちが自然を感じることができる環境作りを園全体で作っていく事ができた。保護者の方にも参加していただき、樹木の刈り込みをし、菜園で育てた大根をお汁にして食べた。ビオトープづくりをし、園庭に実のなる木、日陰を作る木、子どもたちが遊べる木を植えた。園庭が広がり、優しい風の通る園庭で自然物であそび、虫を探し、十分に遊びこめる園庭を今後も保護者の方と作っていきたいと考えている。そのような自然を大切にしたい関わりができる都会の中の保育園を、しおあなの森保育園にかかわるすべての人と、子どもたちや保育園のことを考え、意見や提案を出し合い、作っていきことができた。また、年齢別保育が中心ではあるが、異年齢保育にも力を入れ、子どもたちが年齢で区切られることなく、異年齢の中で他者とのかかわり、様々な学びを得ることができたと感じる。

運動遊び、表現遊び、園庭遊び、自然を取り入れた遊びにも力を入れてきた。菜園活動では自分たちで育てて収穫したものをクッキングして味わったり、各家庭に収穫物を持って帰って調理していただくことで、親子で作って食べる経験もしていただいた。

各クラスの保育は壁新聞、ドキュメンテーション等で子どもたちの育ちを知らせ、送迎時には直接保護者と短い時間の会話を大切にしている。また、インスタグラムで、日々の保育や子どもたちの姿を紹介し、安心して保育園の生活を見守っていただけるように取り組んできた。

幼児の昼食では、職員と一緒に食べることで、子どもたちの「苦手なものも少し食べること」「いただきます・ごちそうさま」などの食育にもつながっている。

2. 延長保育の利用について

今年度も、保護者の就労状況に伴う延長保育のニーズに応えていきたい。

3. 一時預かり・園庭開放・子育て支援

一時預かりは年間を通して利用いただいた家庭もあり、延べ85名の利用数であった。園庭開放は年間14回行い、焼き芋、クリスマス会、豆まきなど、普段経験できない行事も喜んで参加していただいた。担当を固定したことで、通い続ける家庭とのつながりが深まり、しおあなの森保育園の存在をアピールすることにもつながっている。全戸訪問は看護師、園長が乳児家庭を訪問し、個々の育児相談等にこたえてきた。来年度も保育園内外の子育て支援に園全体で取り組んでいきたい。

4. 地域との交流について

大仙西、新湊小学校との交流、学校見学に参加させていただいたことで、安心して就学を迎える手助けとなった。また、5才児のデイキャンプでは布袋湯を利用させていただいた。大仙西小学校、陵西中学校生徒の保育士体験受け入れを行うことができた。大仙西小学校とは小学校運動会に共愛こども園と二園で参加したり、二園交5歳児交流を通して、様々な集団の中で他者とのかかわって様々な経験をすることを大切にしてきた。

5. 研修について

キャリアアップ研修を中心に参加した。

園内では乳児保育、幼児保育会議、環境、菜園等の会議を通して、しおあなの森保育園の子どもたちに育ってほしい姿を確認しながら、保育の成果や課題を話し合い、各年齢の保育内容につなげ、保育の質向上につなげてきた。

6. その他

人材確保について

年々人材確保は難しくなっているが、保育実習生を受け入れたり、インスタ、ホームページを通して興味を持っていただいた方に、保育園の魅力を伝えて、保育士の確保につなげてきた。

保育園に対する苦情について

職員の対応、保育園の保育内容や子ども同士のトラブルなどについて、意見や苦情があった。内容をしっかりと受け止め、改善すべき点は改善し、保護者の方に伝えてきた。ホームページでの公開をしているが、今後も様々な問題や、保育園の在り方について、保護者の方の意見に耳を傾け、丁寧に対応していきたい。